

2026年1月

アジア・パシフィック経済マンスリー

第一生命経済研究所 経済調査部
主任エコノミスト 阿原 健一郎 (TEL : 050-5470-4868)



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任を負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

実体経済サマリー

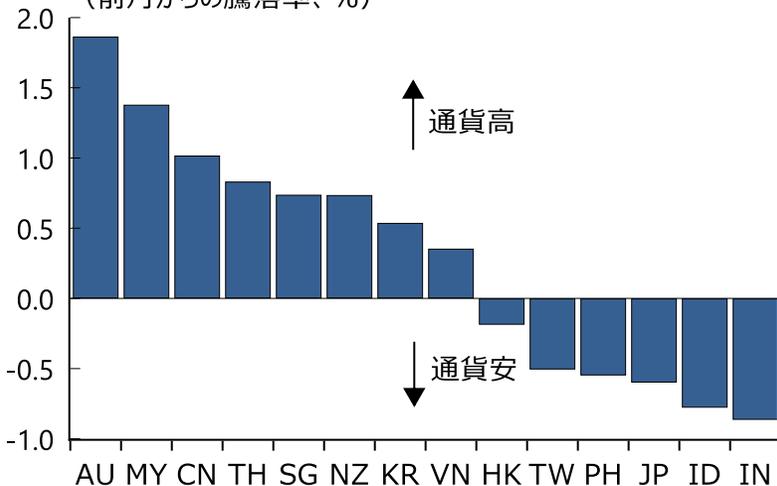
		実質GDP（前年比、前期比年率、%）					CPI（前年比、%）			失業率（%）			
		2024	2025	2025 Q1	2025 Q2	2025 Q3	2025 Q4	2025 Q2	2025 Q3	2025 Q4	2025 Q2	2025 Q3	2025 Q4
	中国	5.0		4.9	4.1	4.5	4.9	0.0	-0.2	0.6	5.0	5.2	5.1
	インド	6.7		8.6	7.3	8.1		2.7	1.7	0.8	7.4	6.5	7.0
	韓国	2.0	1.0	-0.9	2.7	5.4	-1.1	2.1	2.0	2.4	2.7	2.5	3.1
	台湾	5.3	8.6	8.0	10.6	7.0		1.6	1.5	1.3	3.3	3.3	3.3
	香港	2.5		7.5	1.8	2.8		1.8	1.1	1.3	3.5	3.8	3.8
	シンガポール	4.4	4.8	-2.0	7.5	10.1	7.8	0.8	0.6	1.2	2.0	2.0	2.0
	インドネシア	5.0		4.9	5.2	5.0		1.8	2.4	2.8		4.9	
	タイ	2.5		2.8	1.9	-2.2		-0.3	-0.7	-0.5	0.9	0.7	0.7
	フィリピン	5.7	4.4	3.4	5.7	1.2	2.5	1.4	1.4	1.7	3.9	4.3	
	マレーシア	5.1		3.0	8.9	9.8		1.3	1.3	1.4	3.0	3.0	
	ベトナム	7.1	7.9	8.1	10.8	7.6	5.7	3.3	3.3	3.1	2.2	2.2	2.2
	オーストラリア	1.1		1.5	3.0	1.6		2.1	3.2	3.6	4.2	4.3	4.2
	ニュージーランド	-0.3		4.8	-3.3	5.3		2.7	3.0	3.1	5.1	5.2	

(注) ヒートマップは各国各指標の直近5年のZ-score（平均からの乖離）を計算、Z-scoreが+3以上を最も濃い赤色（上振れ）、▲3以下を最も濃い青色（下振れ）で表示。CPIと失業率は四半期の平均値。インドネシアの失業率は半年ごとの公表。

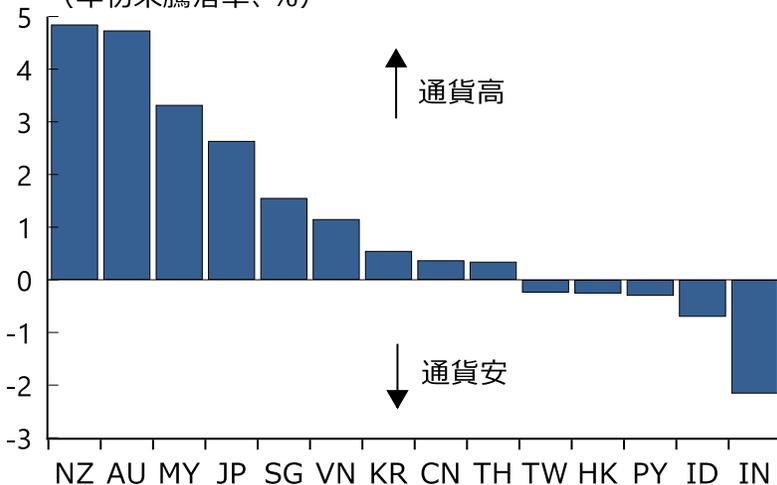
金融市場サマリー

為替

(前月からの騰落率、%)

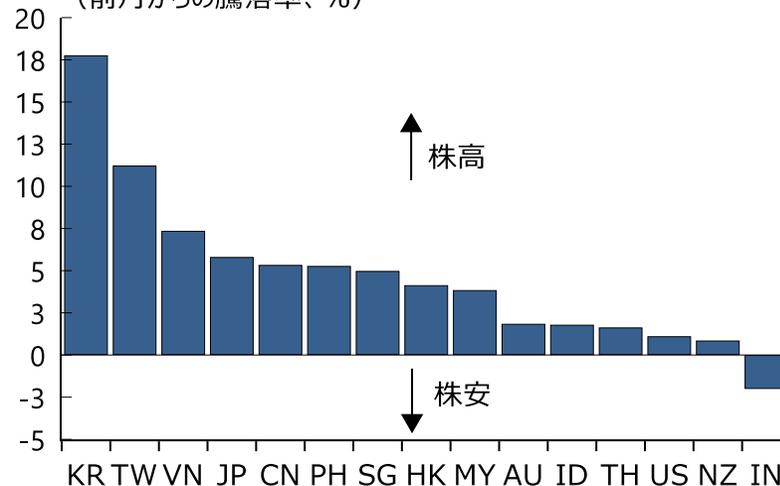


(年初来騰落率、%)

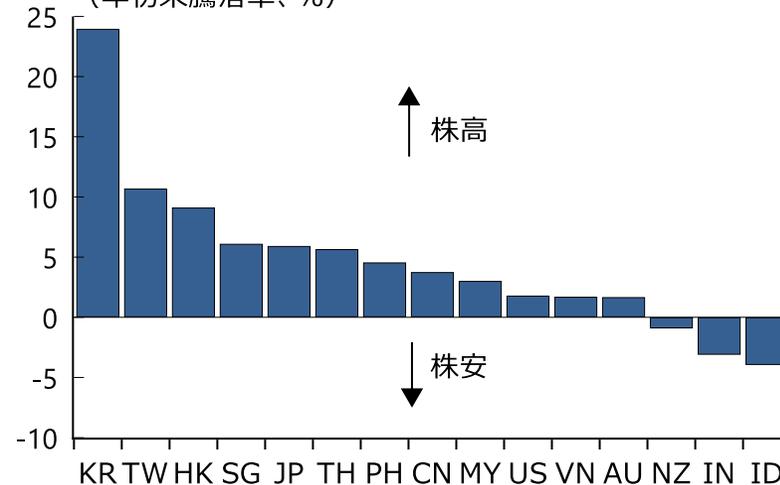


株価

(前月からの騰落率、%)

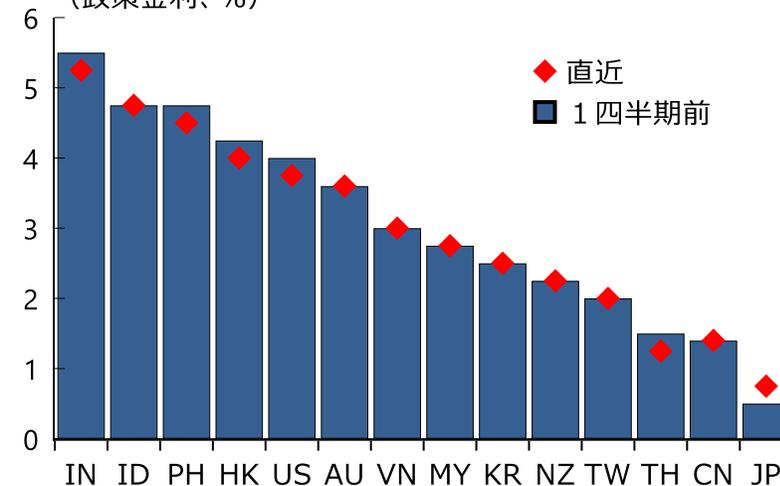


(年初来騰落率、%)



政策金利

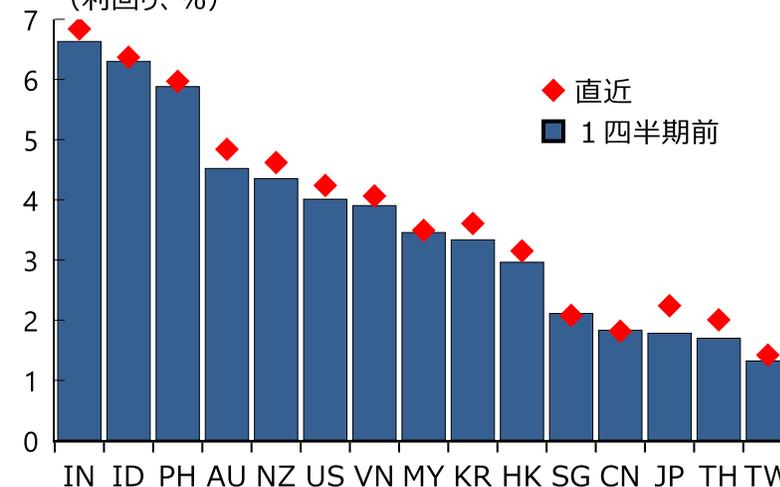
(政策金利、%)



(注) 直近は1/29日時点。

10年国債利回り

(利回り、%)



(注) 直近は1/29日時点。

(注) 前月からの騰落率は25年12月平均と1/29日までの1月平均との比較、年初来騰落率は2025年終値と1/29日終値との比較。

為替は対米ドルの名目為替レート、株価は各国の主要株価指数。各国コードは、AU=オーストラリア、CN=中国、HK=香港、IN=インド、ID=インドネシア、JP=日本、KR=韓国、MY=マレーシア、NZ=ニュージーランド、PH=フィリピン、SG=シンガポール、TW=台湾、TH=タイ、US=米国、VN=ベトナム。

(出所) Macrobondより第一生命経済研究所作成



中国

■ PMIは再び拡大

12月のRatingDog製造業PMIは50.1と、前月（49.9）から拡大に転じた。新規受注指数や生産指数が改善するも、原材料在庫指数が増加に転じ、ヘッドラインを押し上げた。

■ インフレ率は引き続き加速

12月の総合CPIは前年比+0.8%と、前月（同+0.7%）に続き加速。野菜と牛肉を中心に食料価格が上昇し、総合CPIを押し上げた。コアCPIは同+1.2%と、前月から横ばいで推移。

■ 消費は増加幅が縮小

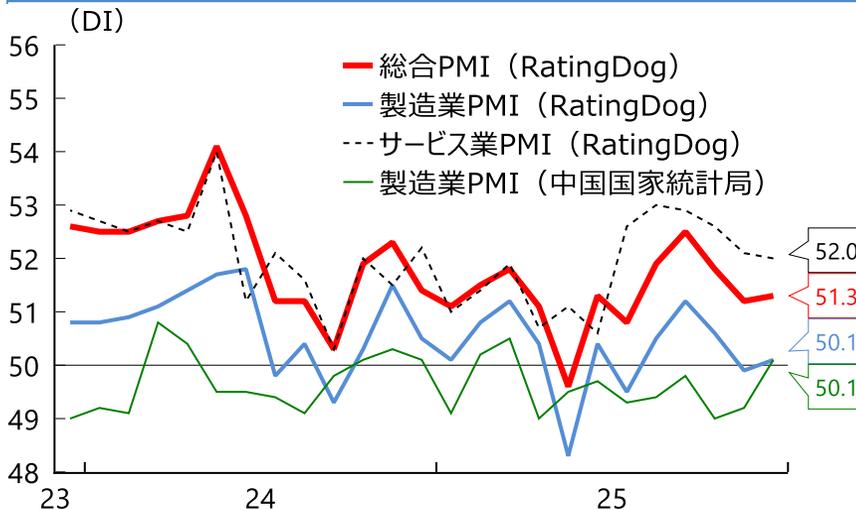
12月の小売売上高は前年比+0.9%と、前月（同+1.3%）から縮小。不動産販売面積も同▲9.5%と、前月（同▲8.6%）から減少幅が拡大。政府が購入支援等の対策を打ち出しているものの、不動産市況の低迷が長期化している。

■ 輸出は米国以外で増加

12月の輸出（速報値）は前年比+6.6%と、前月（同+5.8%）に続き増加。仕向け地別では、米国向けが同▲30.0%と引き続き減少した一方、ASEAN向けが同+11.1%と増加幅が拡大。レアアースの12月の輸出量は同+32.1%と引き続き増加する見通し。

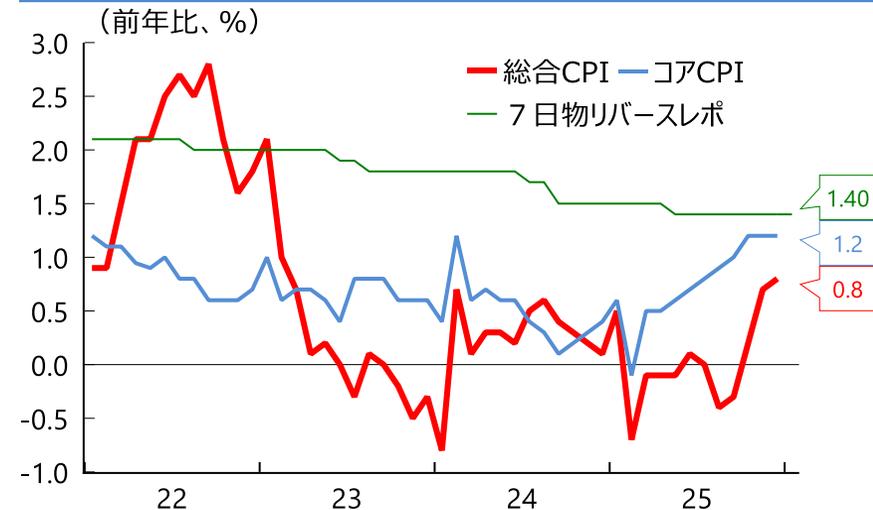
（出所） Macrobond、S&P Globalより第一生命経済研究所作成

PMI



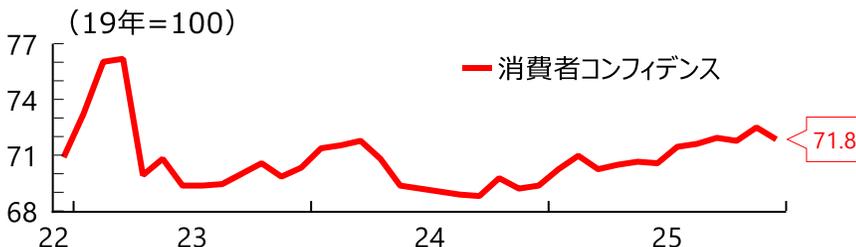
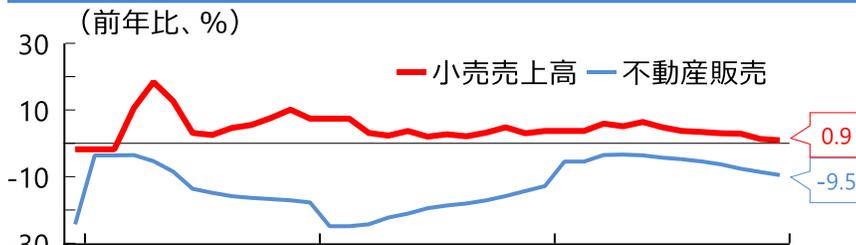
（注）直近は12月。

インフレ率と主要政策金利



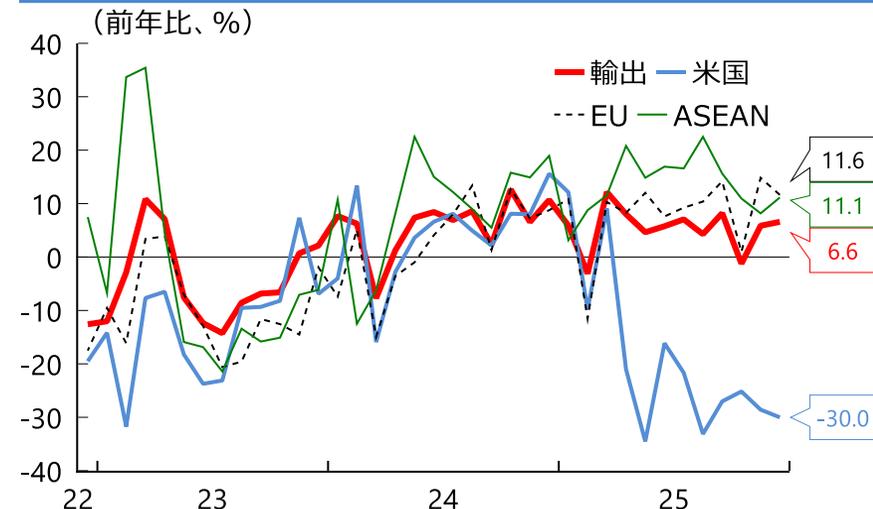
（注）直近は7日物リバースレポが1/29日、その他が12月。

消費



（注）直近は消費者コンフィデンスが11月、その他が12月。不動産販売は面積ベース。

輸出



（注）直近は12月（速報値）。米ドル建ての輸出額。



インド

■ PMIは拡大ペースが加速

1月の総合PMIは59.5と、前月(57.8)から拡大ペースが加速。製造業PMIが56.8、サービス業PMIが59.3といずれも加速し、総合PMIを押し上げた。

■ インフレ率は加速

12月の総合CPIは前年比+1.3%と、前月(同+0.7%)から加速。野菜価格の低下が引き続き鈍化し、押し下げ圧力が緩和された。コアCPIも同+4.6%と、前月(同+4.3%)から加速。

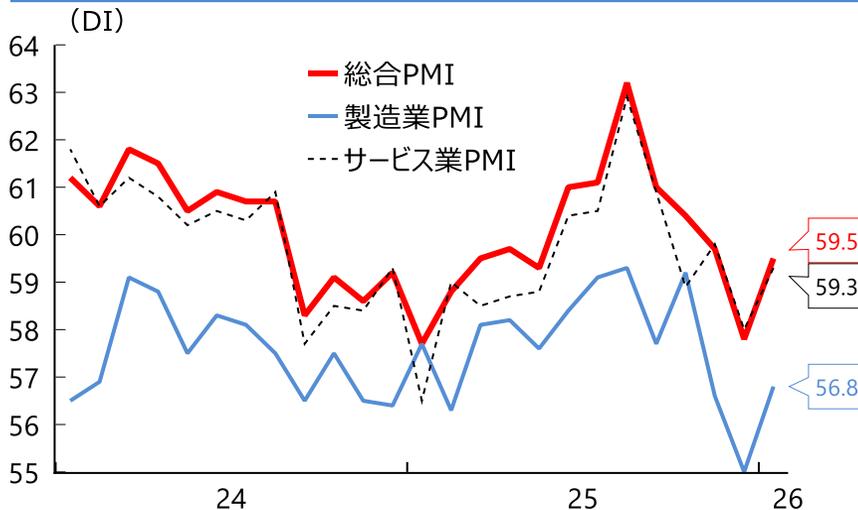
■ 自動車販売は引き続き増加

12月の自動車販売台数は前年比+14.6%と、前月(同+2.1%)からは増加ペースが拡大。GST減税(消費税減税)の影響や年末商戦により需要が刺激され、販売台数が増加した模様。

■ 鉱工業生産は増加幅が拡大

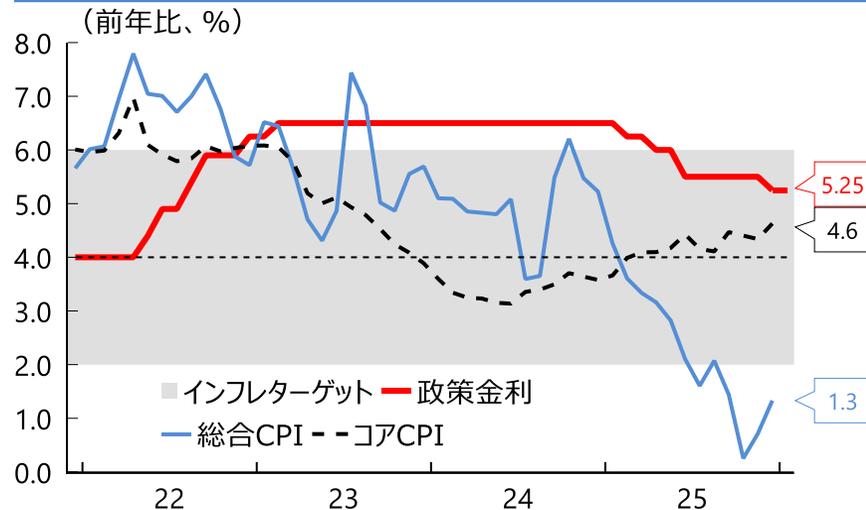
12月の鉱工業生産は前年比+7.8%と、前月(同+6.7%)に続き増加。製造業や電力、消費財のほか、中央政府や州政府の設備投資を受けたインフラ・建設など、幅広いセクターで生産が増加した。

PMI



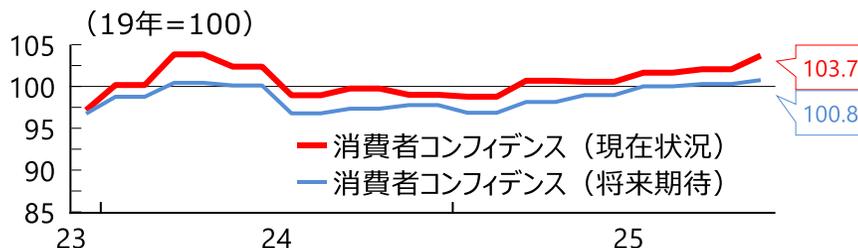
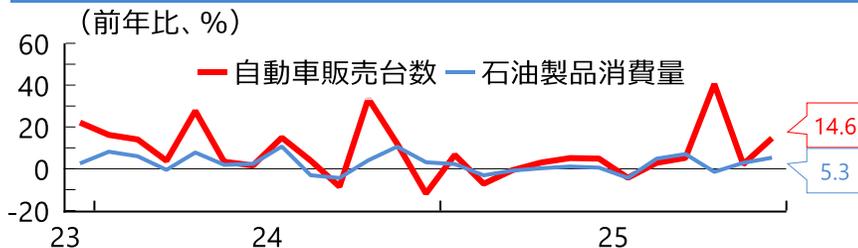
(注) 直近は1月。

インフレ率と政策金利



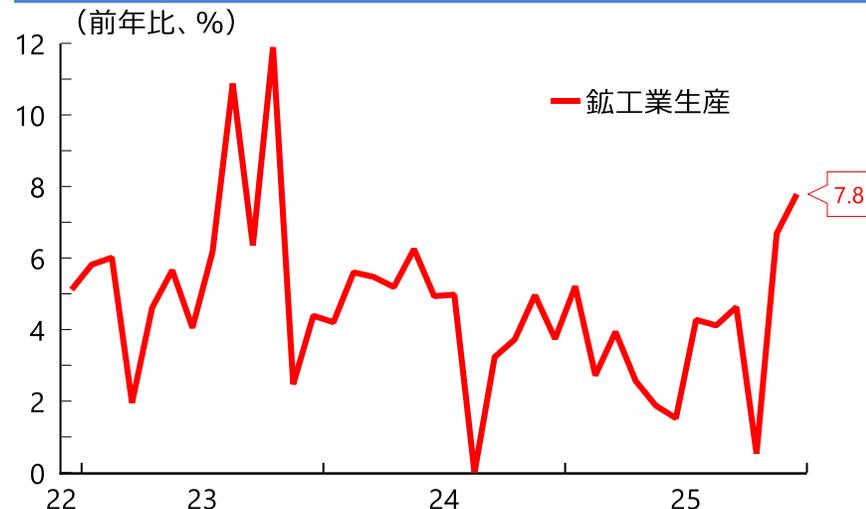
(注) 直近は政策金利が1/29日、その他が12月。

消費



(注) 直近は消費者コンフィデンスが11月、その他は12月。自動車販売台数は二輪車などを含む。

鉱工業生産



(注) 直近は12月。



韓国

■ PMIは拡大に転じる

12月の製造業PMIは50.1と、前月(49.4)から拡大に転じた。新規受注指数、雇用指数が拡大に転じ、ヘッドラインを押し上げた。

■ BOKは予想通りの据え置き

12月の総合CPIは前年比+2.3%と、前月(同+2.4%)からわずかに鈍化。食料価格の伸びが鈍化し、総合CPIを押し下げた。1月15日、韓国銀行は政策金利の据え置きを決定(2.50%)。据え置きは市場予想通り。背景として、インフレ率は徐々に安定すると見込まれる一方、金融安定に対するリスクに触れ、「内外の政策環境の動向を見極めつつ、政策金利を現行水準に維持することが適切」とした。

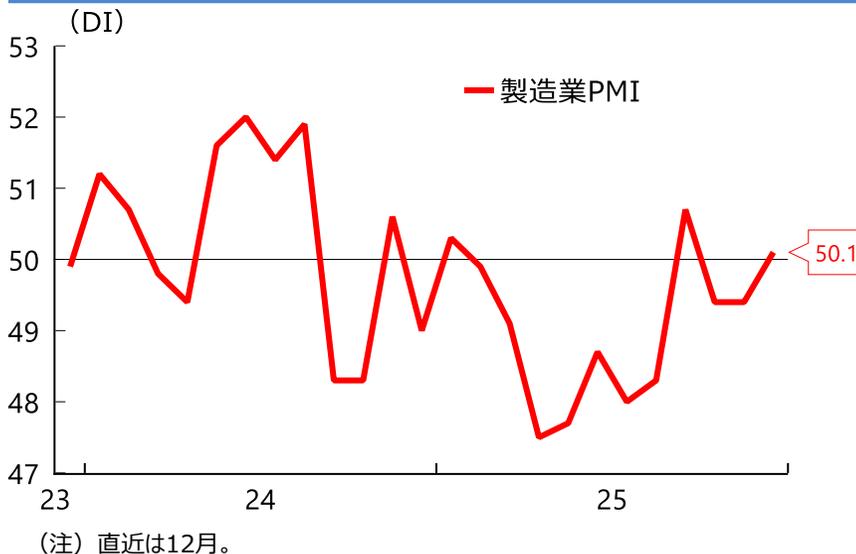
■ 消費は前月から小幅に増加

12月の小売売上高は前期比+0.9%と、前月(同▲3.3%)から小幅に増加。11月は10月の大型連休の反動で消費が抑制されていたが、その影響が解消され、通常の消費サイクルに戻った模様。

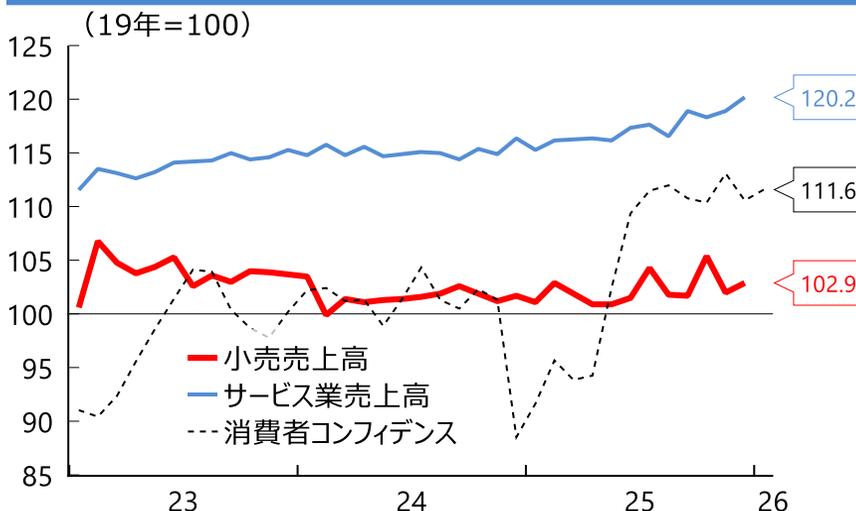
■ 輸出は増加幅が拡大

12月の輸出は前年比+13.3%と、前月(同+8.0%)から増加幅が拡大。主要品目の半導体が大きく牽引した。仕向け地別では、米国向けが増加に転じた。

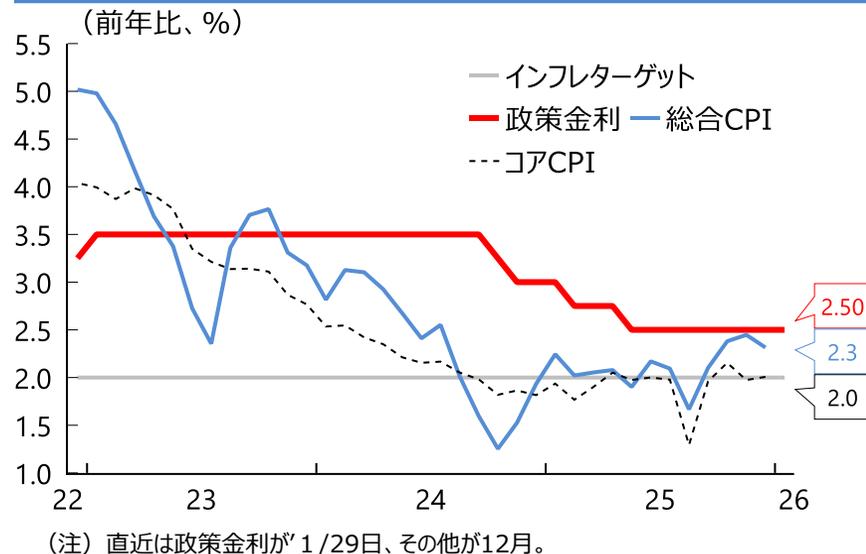
PMI



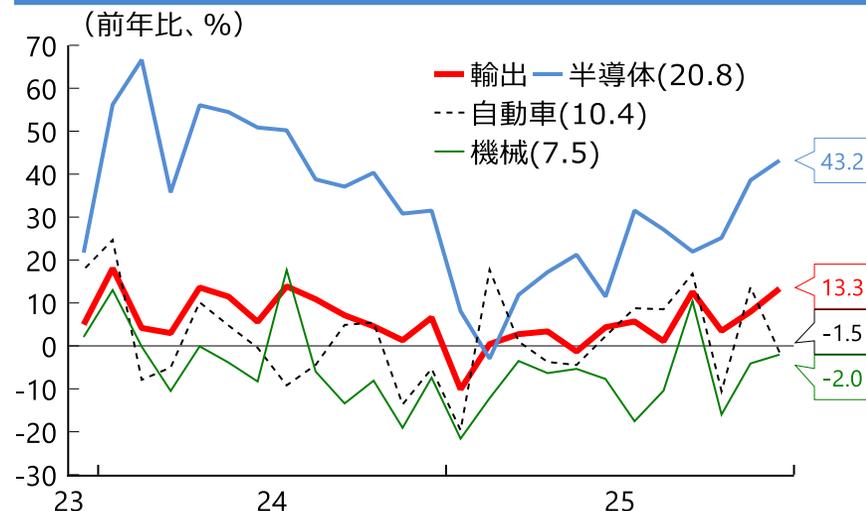
消費



インフレ率と政策金利



輸出



■ PMIは拡大ペースが加速

12月の製造業PMIは55.3と、前月（51.4）から拡大ペースが加速。エレクトロニクス部門も59.5と、前月（52.2）から拡大ペースが大きく加速した。新規受注指数、生産指数の拡大ペースが加速し、ヘッドラインを押し上げた。

■ インフレ率はわずかに加速

12月の総合CPIは前年比+1.3%と、前月（同+1.2%）からわずかに加速。衣類などのプラス寄与が拡大した。

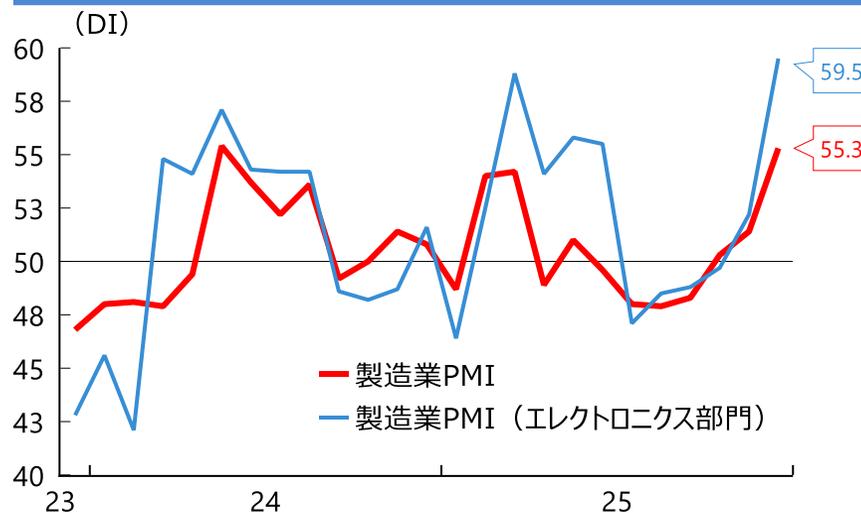
■ 消費は増加幅が縮小

12月の実質小売売上高は前年比+0.6%と、前月（同+1.4%）から増加幅が縮小。当局によると、昨年1月末から始まった春節が今年は2月中旬からになり、日程が後ずれしており、消費の需要増加も遅れているとのこと。

■ 輸出受注は増加幅が拡大

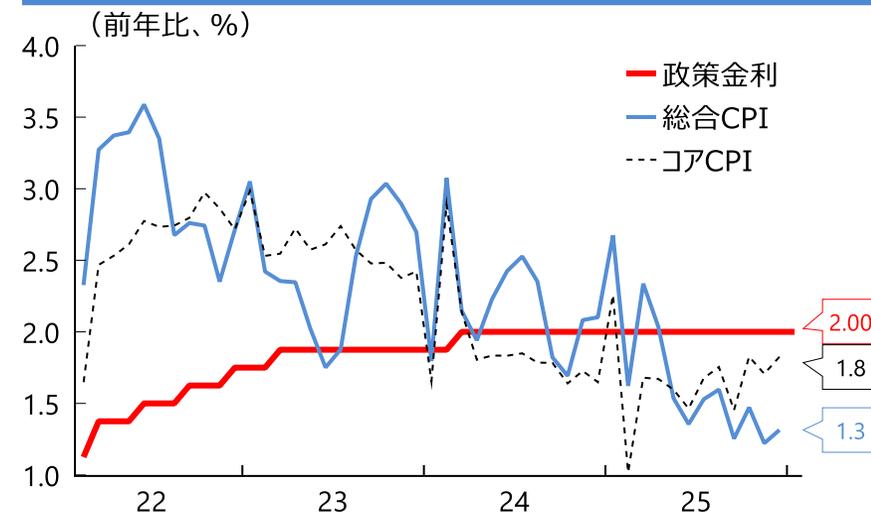
12月の輸出受注は前年比+44.0%と、前月（同+39.6%）から増加幅が拡大。スマホ関連の受注が増加した。受注先では、欧州（同+47.0%）や日本（同+26.3%）を中心に増加した。

PMI



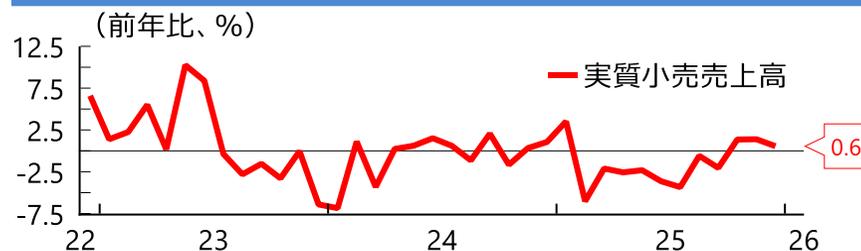
(注) 直近は12月。国家発展委員会の公表値。

インフレ率と政策金利

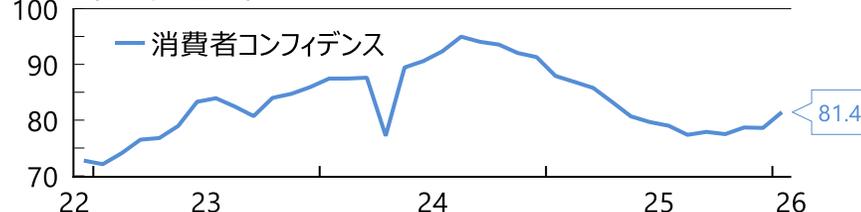


(注) 直近は政策金利が1/29日、その他が12月。

国内消費

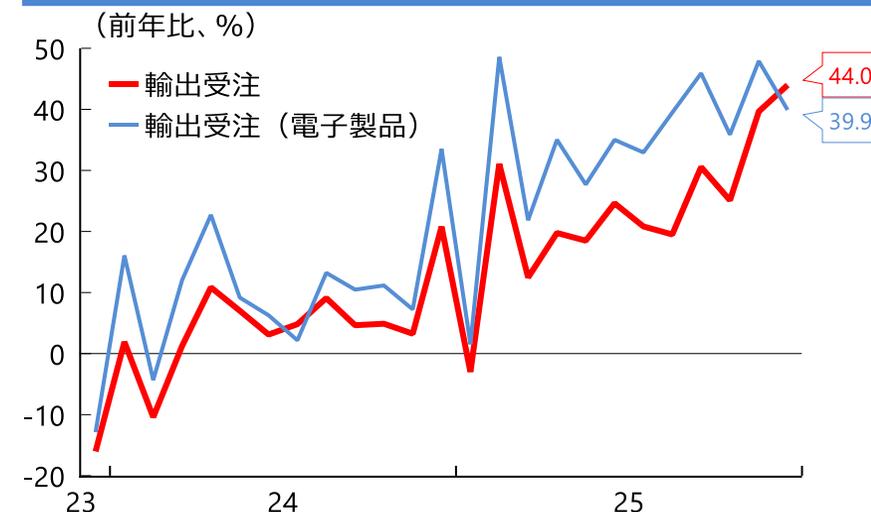


(19年=100)



(注) 直近は実質小売売上高が12月、消費者コンフィデンスが1月。

輸出受注



(注) 直近は12月。米ドル建ての輸出受注額。

■ PMIは引き続き拡大

12月の総合PMIは51.9と、前月（52.9）に続き拡大。拡大ペースは鈍化したものの、中国本土からの需要増加により、景況感の改善が続いている模様。

■ HKMAはFRBに追随して据え置き

12月の総合CPIは前年比+1.5%と、前月（同+1.2%）から伸びが加速。交通運賃等が上昇し、総合CPIを押し上げた。

1月29日、香港金融管理局（HKMA）は政策金利の据え置きを決定（4.00%）。前日にFRBが据え置きを決定したことを受けて、これに追随した。

■ 消費は引き続き増加

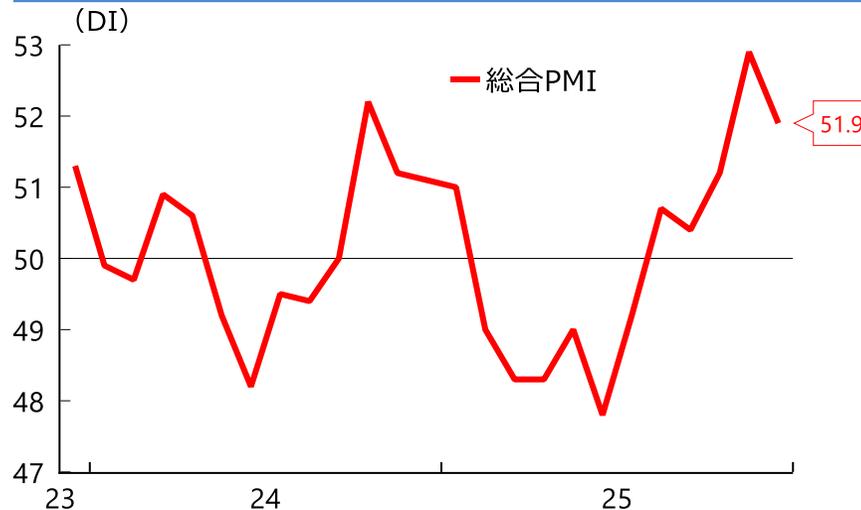
11月の小売売上高は前年比+4.4%と、前月（同+5.4%）に続き増加。中国本土を中心とした観光客の増加やオンライン販売の増加が寄与した。

■ 輸出は引き続き増加

11月の輸出量は前年比+15.4%と、前月（同+14.6%）に続き増加。電気機械、通信機器などの出荷が増加した。仕向け地別では、米国（同+43.8%）や中国（同+13.0%）と増加し、輸出を大きく牽引した。

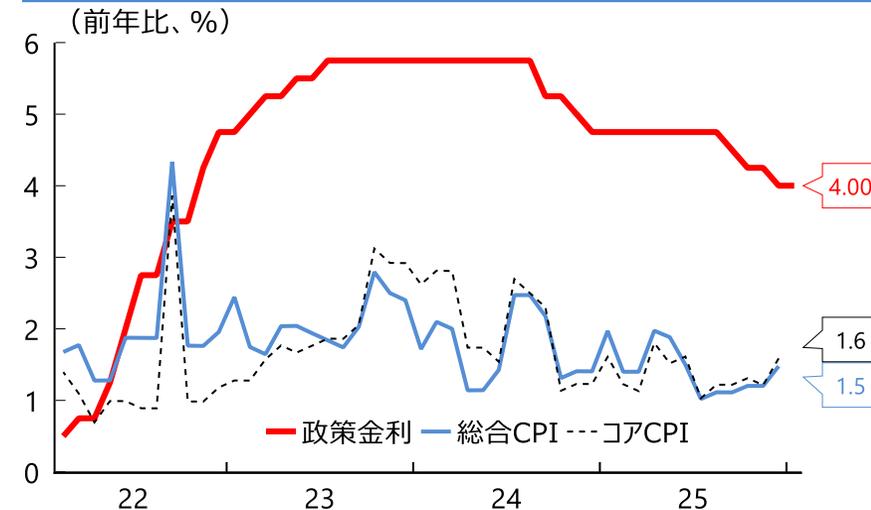
（出所） Macrobond、S&P Globalより第一生命経済研究所作成

PMI



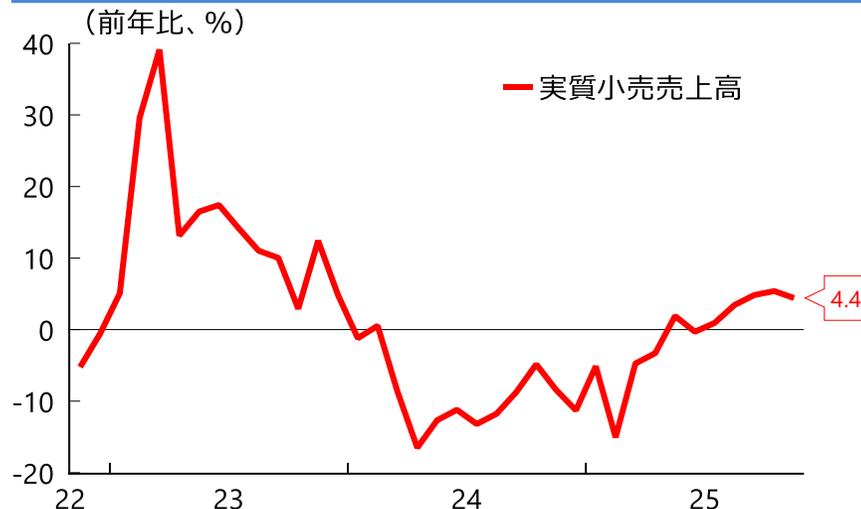
（注）直近は12月。

インフレ率と政策金利



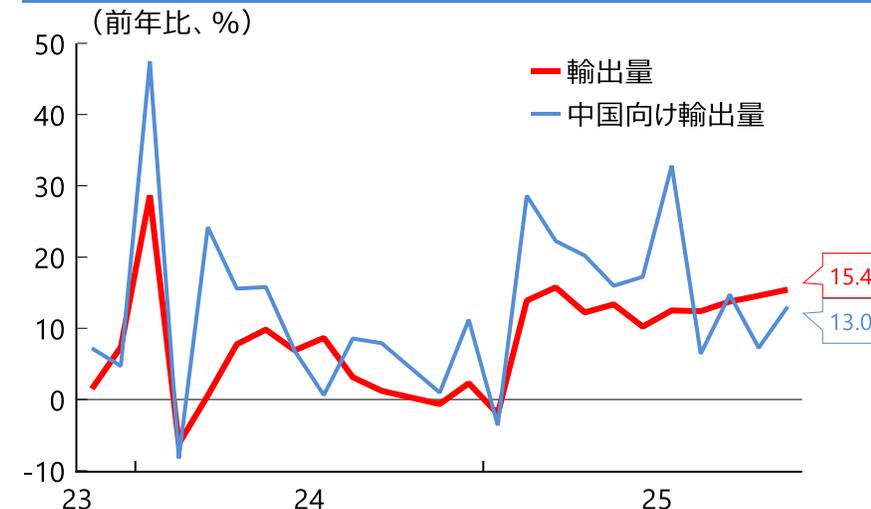
（注）直近は政策金利が1/29日、その他が12月。

国内消費



（注）直近は11月。

輸出



（注）直近は11月。再輸出を含む輸出量の指数。



シンガポール

■ PMIは拡大

12月の製造業PMIは50.3と、前月（50.2）に続き拡大。エレクトロニクス部門も50.9と、前月（50.6）から拡大ペースが加速。

■ 政策為替レートは足もと増価

1月29日、シンガポール通貨金融庁（MAS）は、政策為替レートS\$NEERの誘導目標の据え置きを決定。据え置きは市場予想通り。成長とインフレ見通しに対するリスクは上振れに傾いているとしつつ、世界経済の下振れリスクにも触れ、「外部環境の不確実性の中で経済動向を引き続き注視していく」とした。政策為替レートは141.19と増価。

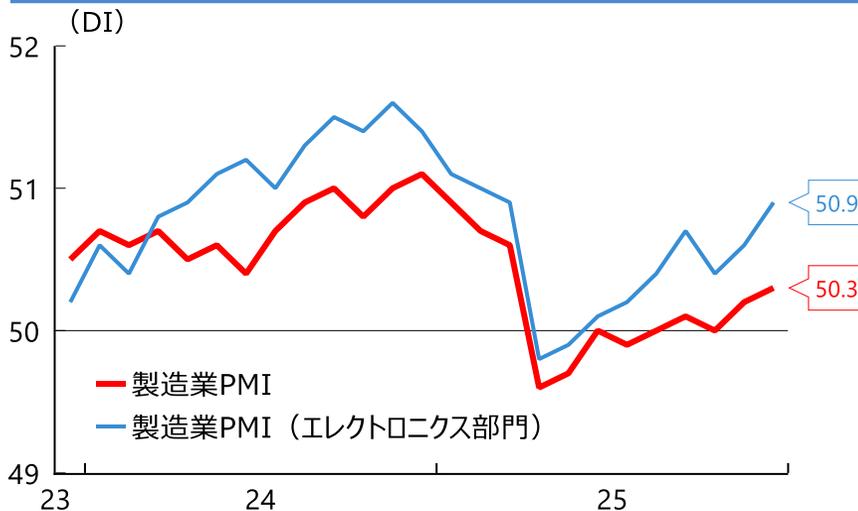
■ 消費は引き続き増加

11月の実質小売売上高は前年比+4.4%と、前月（同+2.0%）に続き増加。オンライン販売や自動車などを中心に売上が増加した。

■ 輸出は引き続き増加

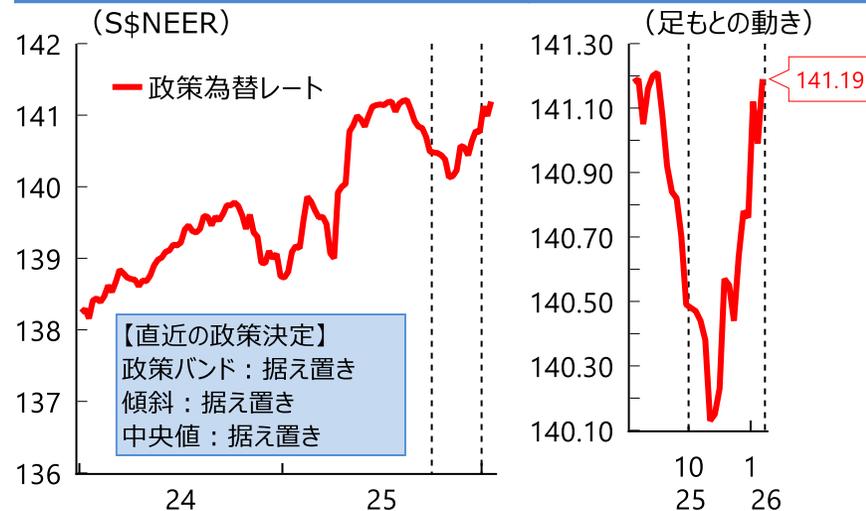
12月の輸出は前年比+10.9%と、前月（同+9.9%）に続き増加。仕向け地別では、米国向けが引き続き増加するもと、香港向けが増加に転じ、輸出全体を押し上げた。

PMI



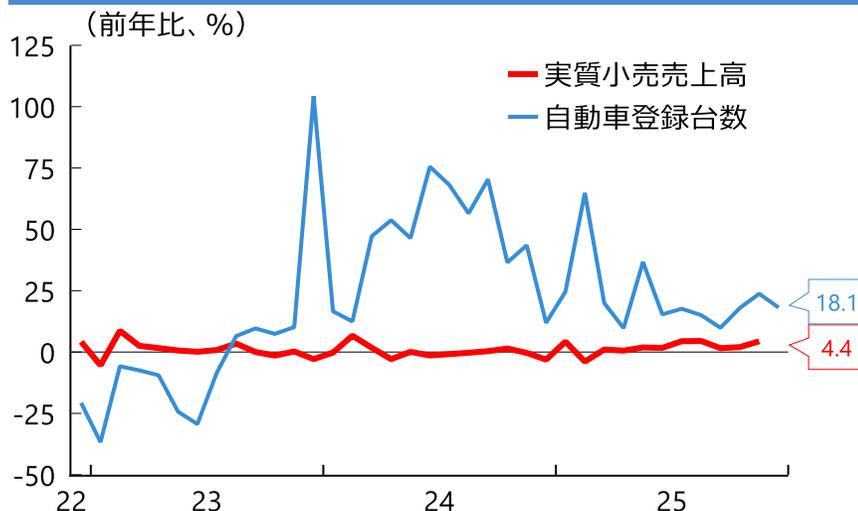
(注) 直近は12月。シンガポール購買・原料管理研究所の公表値。

政策為替レート



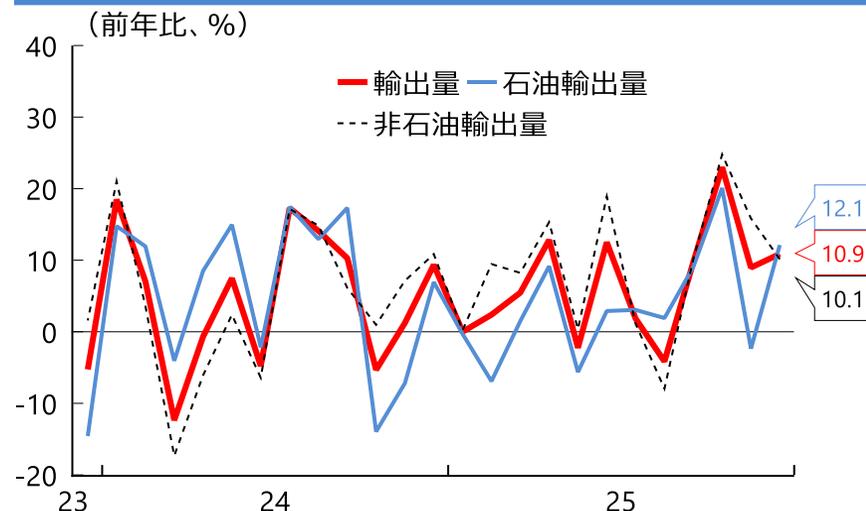
(注) 直近は1/23日の週。破線は直近2回の政策決定タイミング。

国内消費



(注) 直近は実質小売売上高が11月、自動車登録台数が12月。

輸出



(注) 直近は12月。再輸出を除いた地場輸出の実質輸出額。



インドネシア

■ PMIは拡大ペースが鈍化

12月の製造業PMIは51.2と、前月(53.3)から拡大ペースが鈍化。新規受注指数、生産指数の拡大ペースが鈍化し、ヘッドラインを押し下げた。

■ BIは為替レート安定を優先する据え置き

12月の総合CPIは前年比+2.9%と、前月(同+2.7%)から伸びが加速。食料価格や輸送費が上昇し、総合CPIを押し上げた。1月21日、インドネシア銀行(BI)は政策金利の据え置きを決定(4.75%)。据え置きは市場予想通り。背景として、「世界的な不確実性の高まりの影響からルピア為替レートを安定させ、インフレ目標達成を支援し、経済成長を促進するという現在の政策重点に沿ったもの」とし、ルピア安の抑制を優先した。

■ 消費は引き続き増加

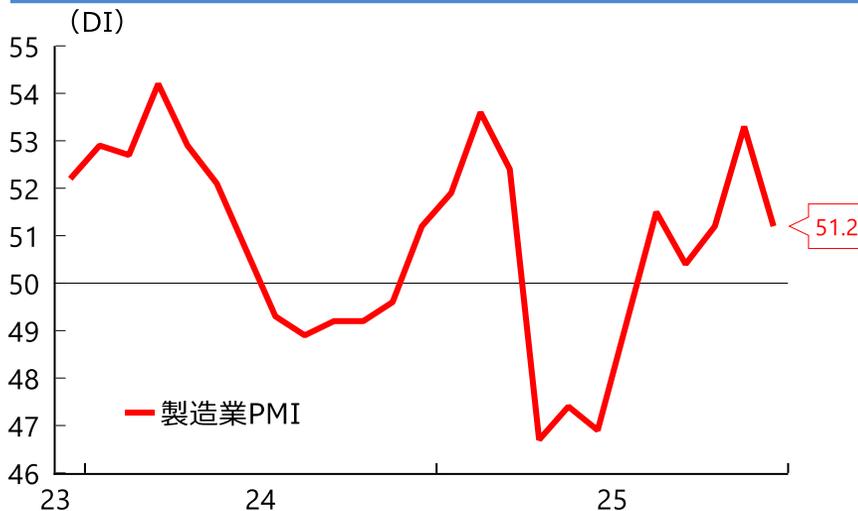
11月の小売売上高は前年比+6.3%と、前月(同+4.3%)に引き続き増加。政府は年末の景気刺激策として、低所得世帯を対象に、10月から12月の3か月分の現金給付を実施。年末に向けた需要増に加え、食料や自動車部品の消費が増加。12月の中銀予測値は同+4.4%と、引き続き増加する見通し。

■ 輸出は引き続き減少

11月の輸出は前年比▲6.6%と、前月(同▲2.3%)から減少幅が拡大。

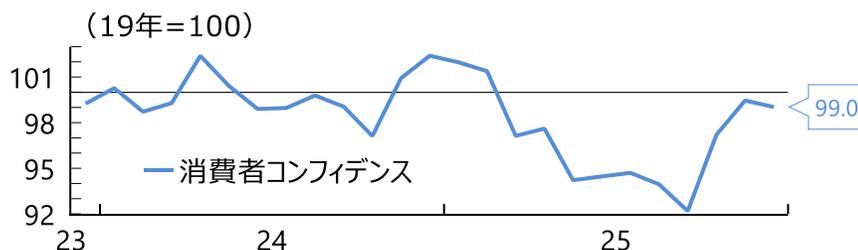
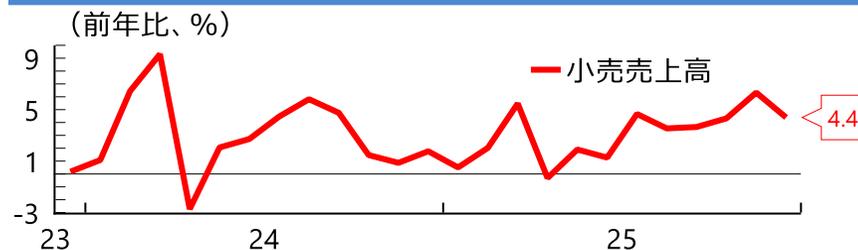
(出所) Macrobond、S&P Globalより第一生命経済研究所作成

PMI



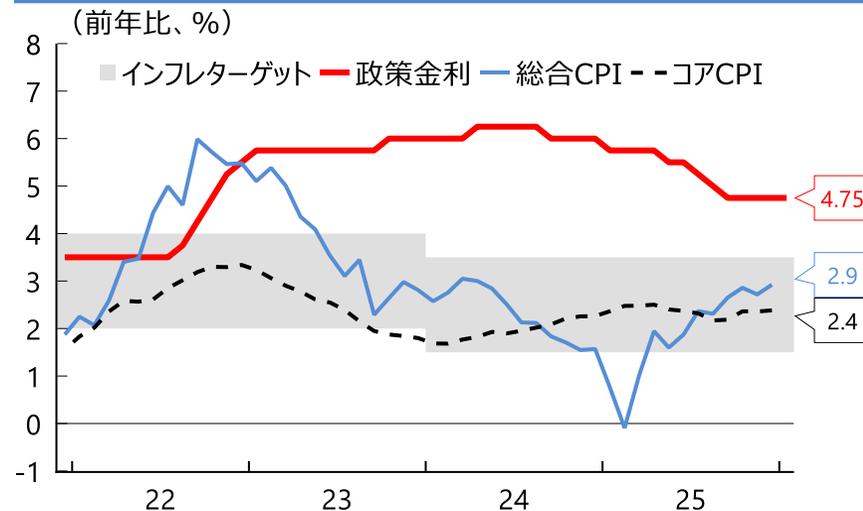
(注) 直近は12月。

国内消費



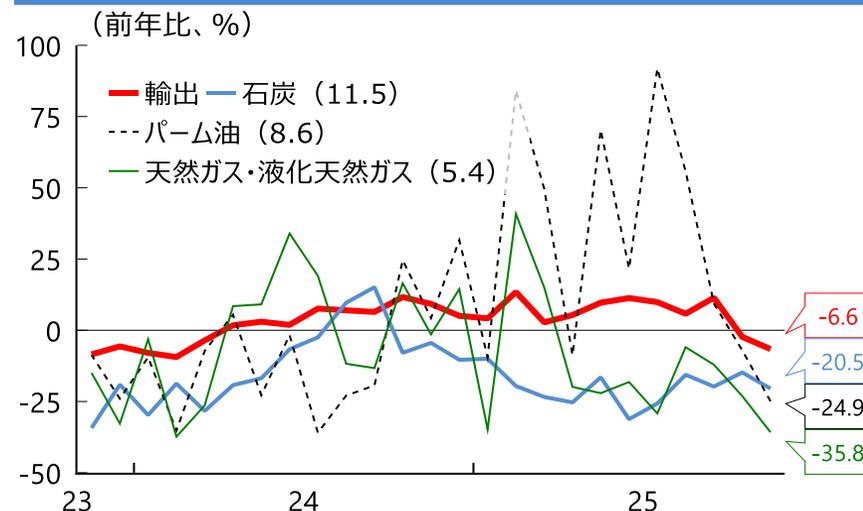
(注) 直近は12月。小売売上高の直近値は中銀予測値。

インフレ率と政策金利



(注) 直近は政策金利が1/29日、その他が12月。

輸出



(注) 直近は輸出、天然ガス・液化天然ガスが11月、その他は10月。()内は24年輸出額に占める割合。10



タイ

■ PMIは引き続き拡大

12月の製造業PMIは57.4と、前月(56.8)から拡大ペースが幾分加速。新規受注指数と生産指数の拡大ペースが加速し、ヘッドラインを押し上げた。

■ インフレ率は下落ペースが鈍化

12月の総合CPIは前年比▲0.3%と、前月(同▲0.5%)から物価の下落ペースが鈍化。食料価格が上昇し、総合CPIを押し上げた。

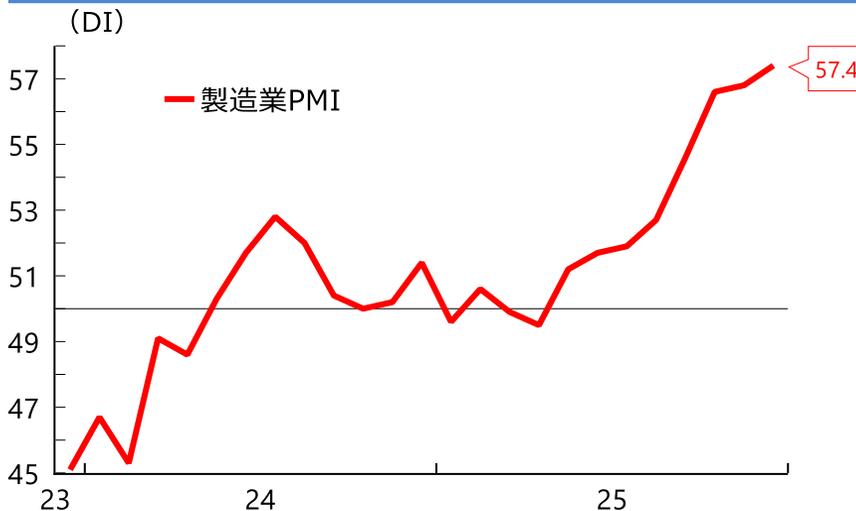
■ 消費は増加幅が縮小

11月の小売売上高は前年比+15.5%と、前月(同+66.5%)から増加幅が縮小。非耐久財を中心に売上が鈍化した。12月の自動車販売は同+39.1%と、前月(同+20.6%)に続き増加。

■ 観光客数は引き続き減少

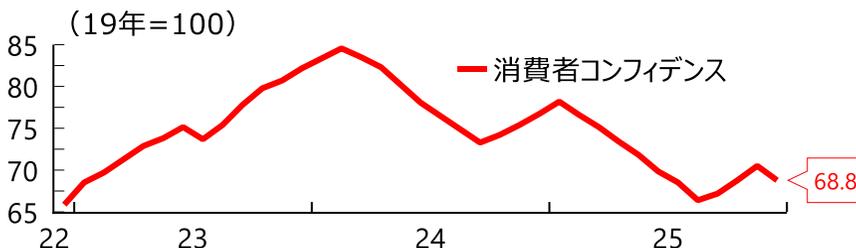
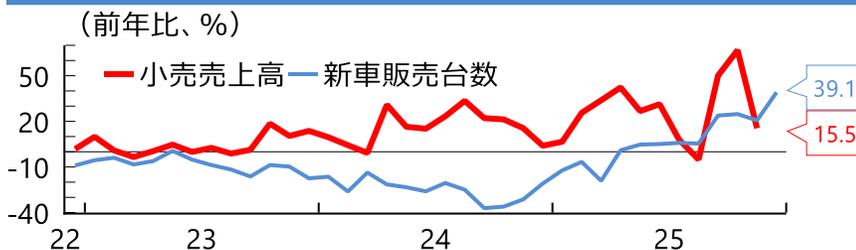
外国人観光客数は12月単月で約337万人、前年比▲7.1%と引き続き減少。中国人観光客が同▲30.4%と引き続き大きく減少した。25年の外国人観光客数は、11月の金融政策レポートでタイ中銀が下方修正した見通し(約3,300万人)で着地した。

PMI



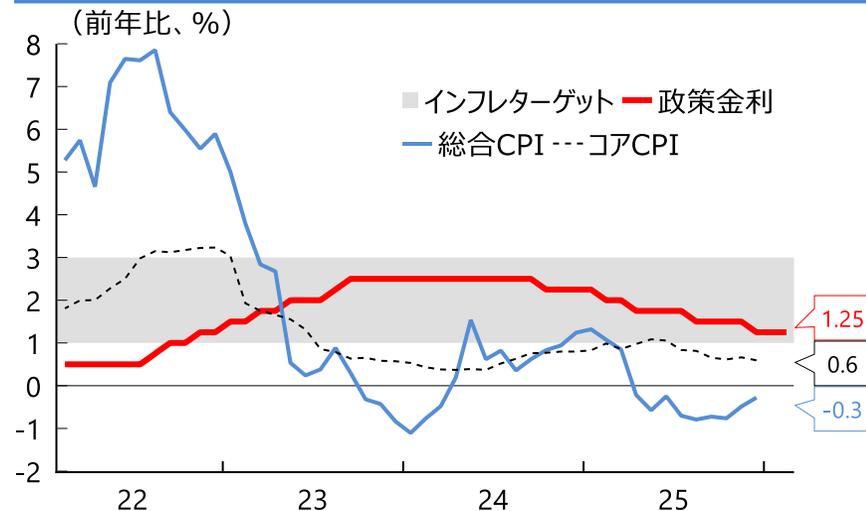
(注) 直近は12月。

国内消費



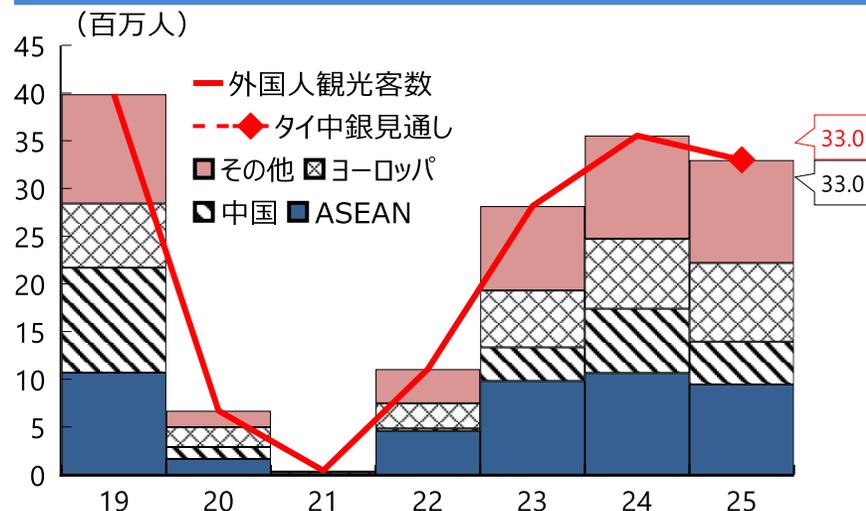
(注) 直近は小売売上高が11月、その他が12月。

インフレ率と政策金利



(注) 直近は政策金利が1/29日、その他が12月。

外国人観光客数



(注) 25年は12月時点実績。



フィリピン

■ PMIは拡大に転じる

12月の製造業PMIは50.2と、前月(47.4)から拡大に転じた。11月は相次ぐ台風の影響で悪化していたが、12月は内需の安定により景況感が改善したとみられる。

■ インフレ率はわずかに加速

12月の総合CPIは前年比+1.8%と、前月(同+1.5%)からわずかに加速。食料価格が上昇、総合CPIを押し上げた。コアCPIは同+2.4%と、前月から横ばいで推移。

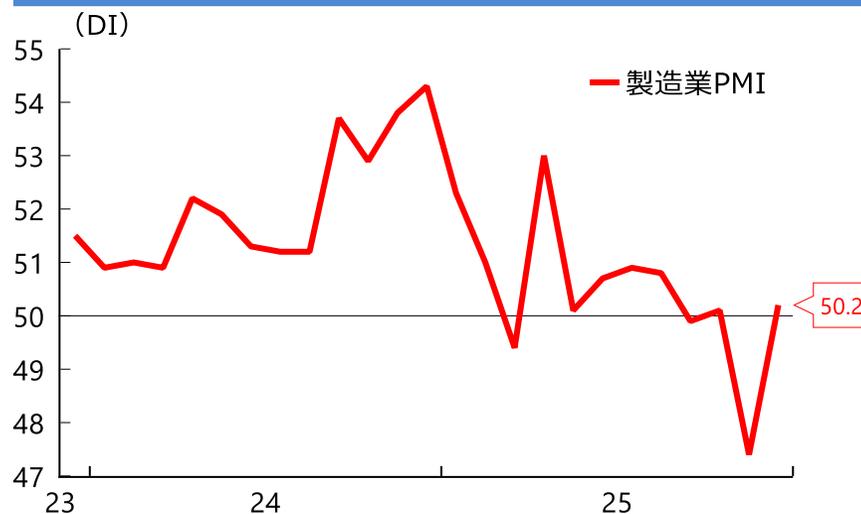
■ 新車販売台数は増加

12月の新車販売台数は前年比+2.0%と、前月(同▲8.7%)から増加に転じた。年末のプロモーションや新型のEVの販売などで、単月は増加した。通年では、同▲0.7%と、昨年からわずかに減少した。

■ 輸出は引き続き増加

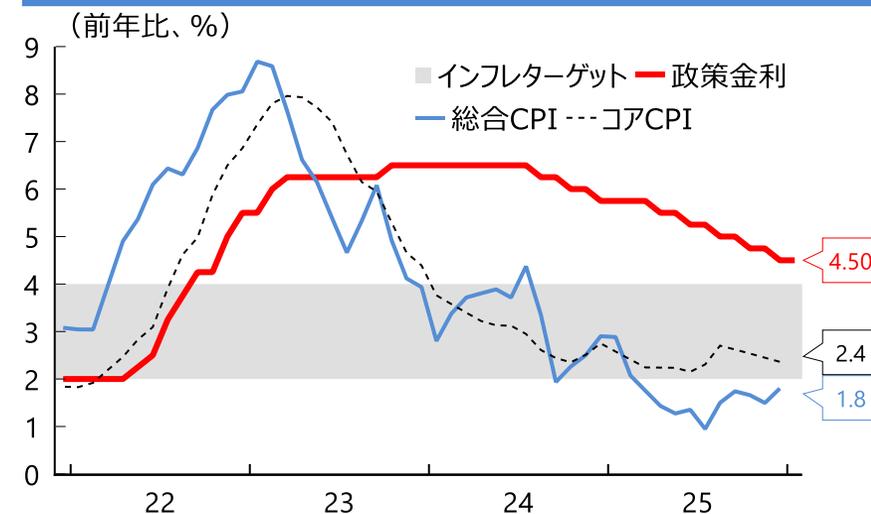
12月の輸出は前年比+23.3%と、前月(同+21.3%)に続き増加。電気・電子製品が引き続き増加するもと、鉱物製品の減少幅が縮小した。仕向け地別では、米国向けが同+14.3%と増加するもと、中国向けが同+8.9%と、前月(同▲11.2%)から増加に転じ、輸出を押し上げた。

PMI



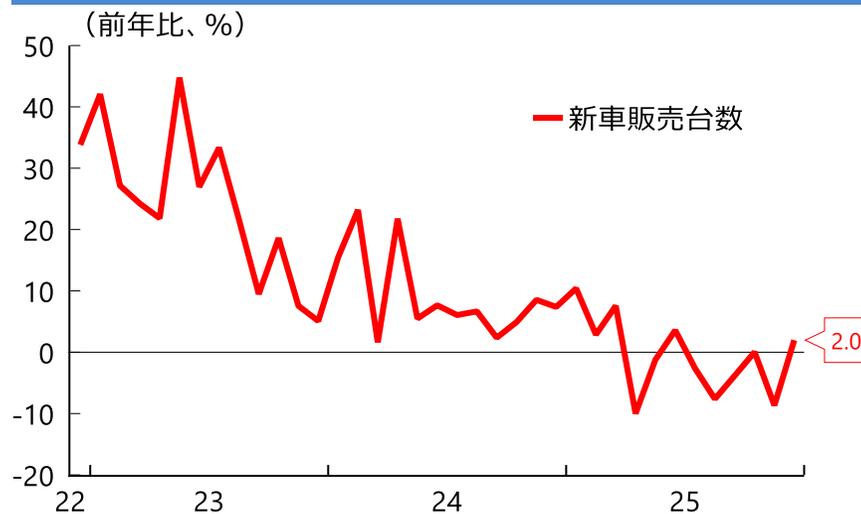
(注) 直近は12月。

インフレ率と政策金利



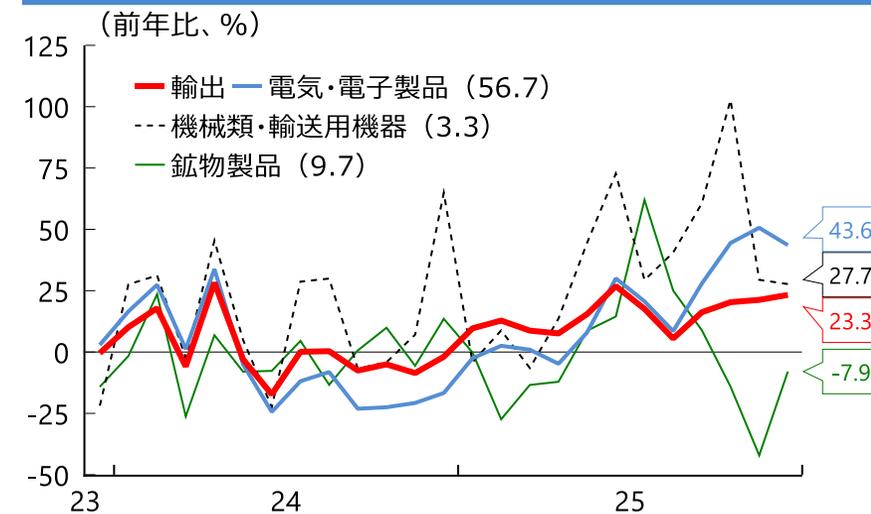
(注) 直近は政策金利が1/29日、その他が12月。

国内消費



(注) 直近は12月。

輸出



(注) 直近は12月。()内は24年輸出額に占める割合。



マレーシア

■ PMIは引き続き拡大

12月の製造業PMIは50.1と、前月(50.1)に続き拡大。新規受注指数が縮小に転じるも、生産指数の縮小ペースの鈍化がヘッドラインの押し下げを相殺した。

■ マレーシア中銀は予想通りの据え置き

12月の総合CPIは前年比+1.6%と、前月(同+1.4%)から伸びが加速。食品価格や住宅価格の上昇に加え、情報通信などのサービス価格の上昇が総合CPIを押し上げた。1月22日、マレーシア中銀は政策金利の据え置きを決定(2.75%)。据え置きは市場予想通り。背景は、「現在の政策金利の水準は、適切な金融政策スタンスであり、物価安定のもとで経済を支えると判断している」とした。

■ 消費は引き続き増加

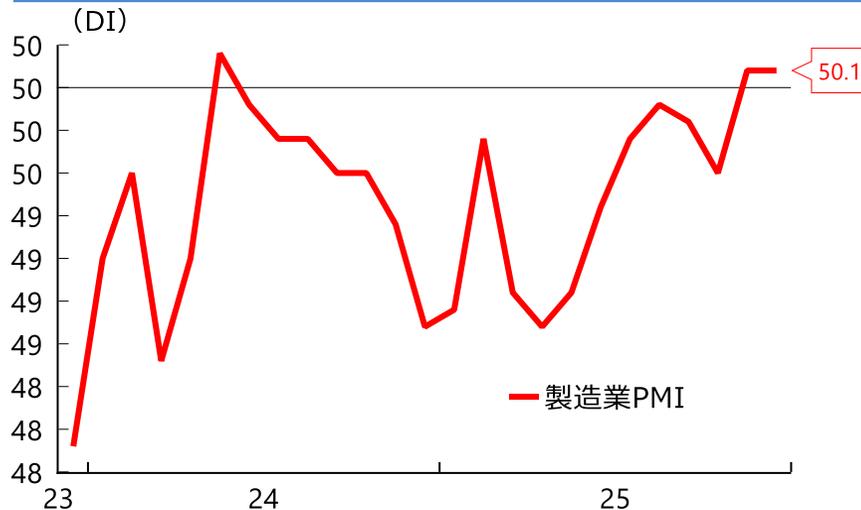
11月の小売売上高は前年比+4.3%と、前月(同+4.6%)に続き増加。新車販売台数も同+5.5%と、前月(同+6.0%)に続き増加。

■ 輸出は増加幅が拡大

12月の輸出は前年比+10.4%と、前月(同+7.0%)から増加幅が拡大。機械類・電気機器を中心に、輸出が増加した。

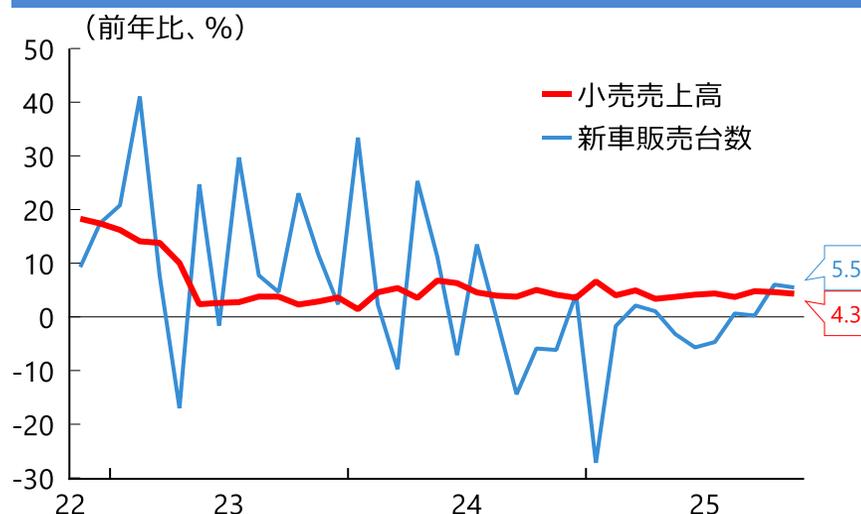
(出所) Macrobond、S&P Globalより第一生命経済研究所作成

PMI



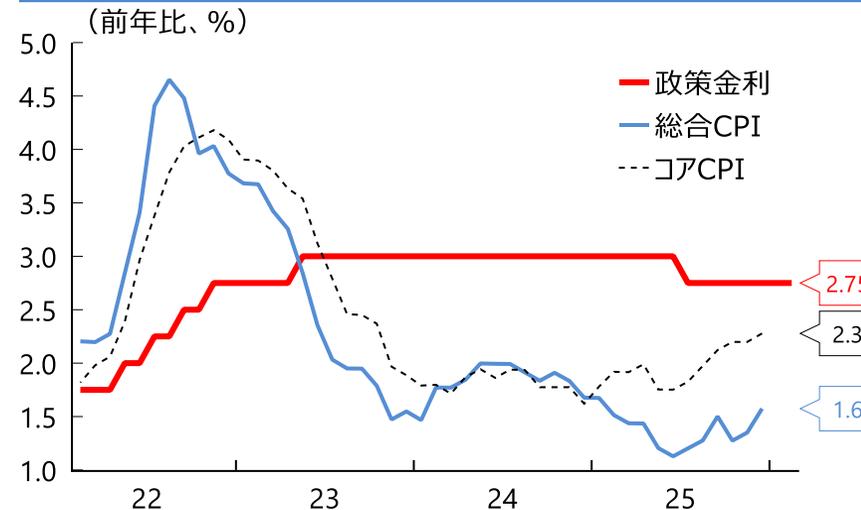
(注) 直近は12月。

国内消費



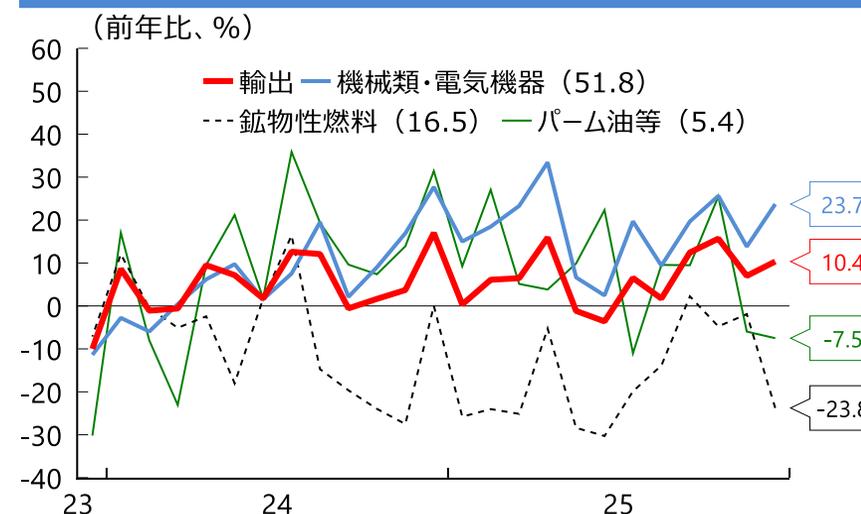
(注) 直近は11月。

インフレ率と政策金利



(注) 直近は政策金利が1/29日、その他が12月。

輸出



(注) 直近は12月。現地通貨建ての輸出額。()内は24年輸出額に占める割合。13



ベトナム

■ PMIは拡大ペースが鈍化

12月の製造業PMIは53.0と、前月(53.8)から拡大ペースが鈍化。新規受注指数、生産指数の拡大ペースが鈍化し、ヘッドラインを押し下げた。

■ インフレ率はわずかに鈍化

12月の総合CPIは前年比+3.5%と、前月(同+3.6%)からわずかに鈍化。食品価格や外食費の上昇が押し上げ要因となった一方、輸送費の低下がインフレを抑制した。

■ 消費は引き続き増加

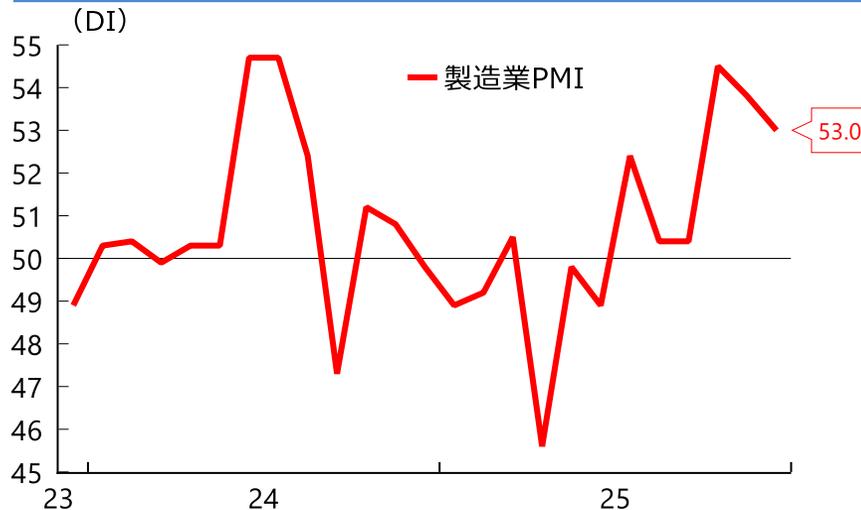
11月の小売売上高は前年比+7.7%と、前月(同+7.8%)に続き増加。観光関連や宿泊・飲食サービスを中心に増加した。12月の当局予測値は同+12.4%と、引き続き増加する見通し。12月の新車販売台数は同+55.8%と、増加幅が大きく拡大。前年に需要刺激策(9月~11月の間で自動車の登録料を半額にする)の影響が剥落して販売台数が減少していた裏要因に加え、メーカーの年末プロモーションやキャンペーンの影響で大きく増加した。

■ 輸出は引き続き増加

12月の輸出は前年比+38.6%と、前月(同+28.9%)に続き増加。仕向け地別では、米国向けや香港向けの増加幅が拡大。

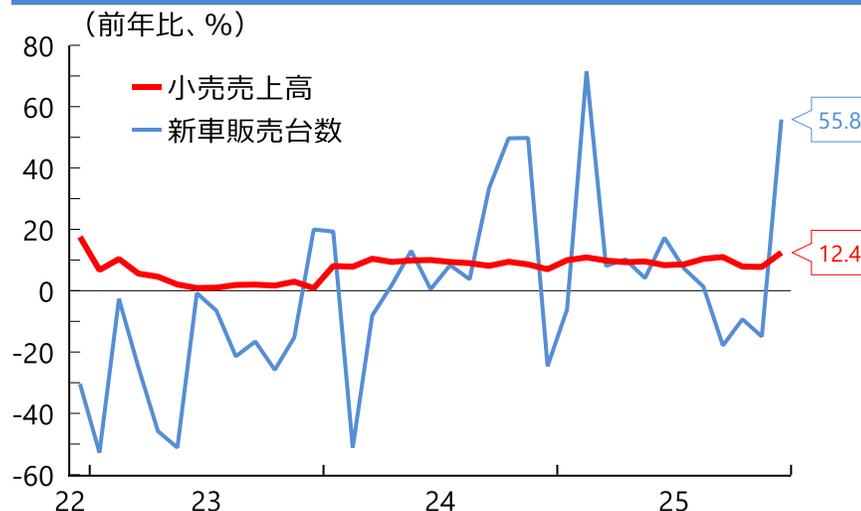
(出所) Macrobond, S&P Globalより第一生命経済研究所作成

PMI



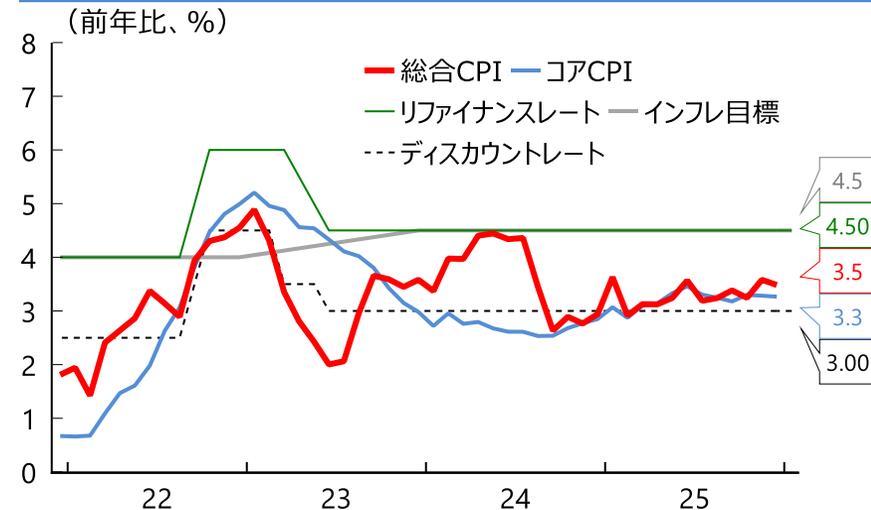
(注) 直近は12月。

国内消費



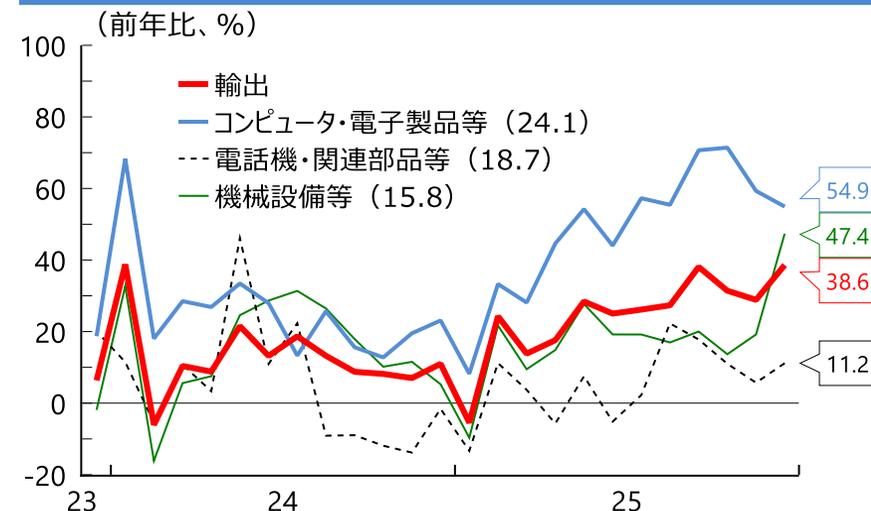
(注) 直近は12月。小売売上高の直近値は当局予測値。

インフレ率と政策金利



(注) 直近はリファイナンスレート、ディスカウントレートが1/29日、その他が12月。

輸出



(注) 直近は12月。米ドル建ての輸出額。()内は24年輸出額に占める割合。 14



オーストラリア

■ PMIは拡大ペースが加速

1月の総合PMIは55.5と、前月（51.0）から拡大ペースが加速。サービス業PMIが56.0と、前月（51.1）から大きく加速し、総合PMIを押し上げた。

■ インフレ率は再び加速

12月の総合CPIは前年比+3.8%と、前月（同+3.4%）から加速。前年対比で電気料金の補助額が下がっていることに加え、食料価格や年末年始の旅行・宿泊費等のサービス価格が再び上昇した。トリム平均CPIも同+3.3%と、インフレ目標を上回って推移している。

■ 消費は引き続き増加

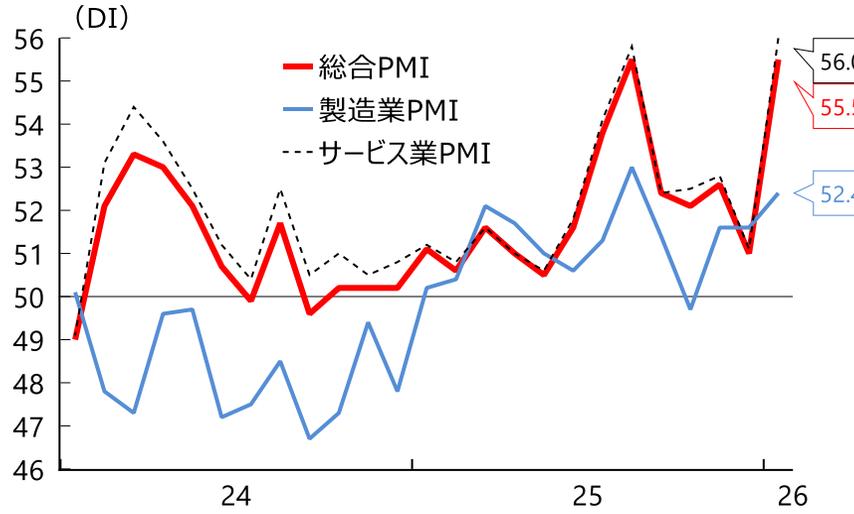
11月の家計支出は前期比+1.0%と、前月（同+1.4%）に続き増加。11月下旬の「ブラックフライデー」セールにより、家具や衣料品への支出が増加したほか、コンサートやスポーツイベントが相次いだことで、娯楽・文化への支出が増加し、全体を牽引した。

■ 輸出は減少に転じる

11月の輸出は前期比▲2.9%と、前月（同+4.3%）から減少に転じた。主要な輸出品目である鉄鉱石などの金属鉱物が同▲9.1%と減少し、輸出全体を押し下げた。

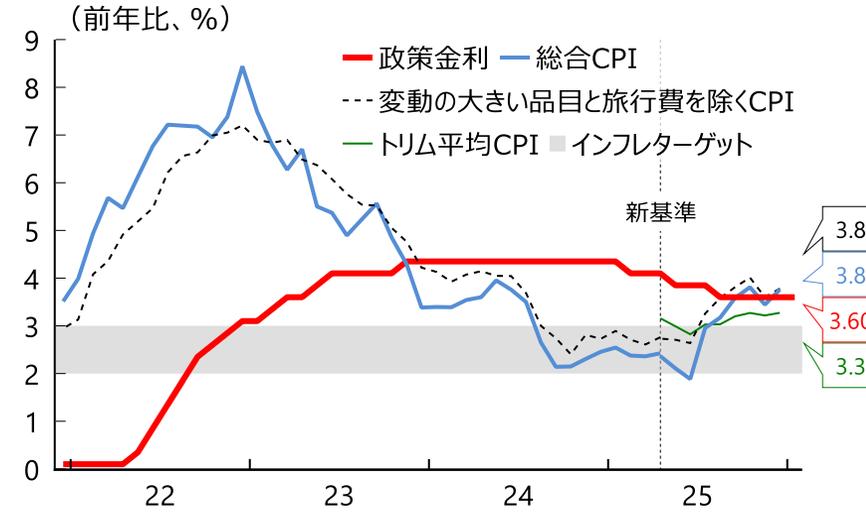
(出所) Macrobond、S&P Globalより第一生命経済研究所作成

PMI



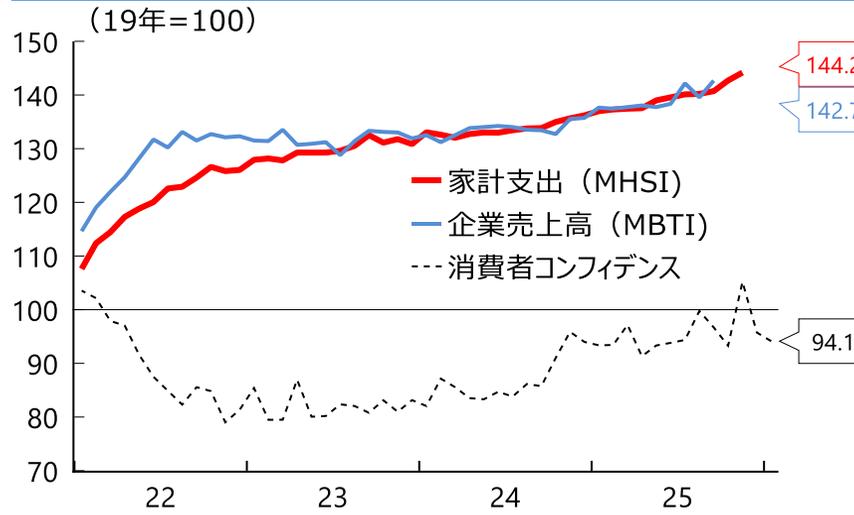
(注) 直近は1月。

インフレ率と政策金利



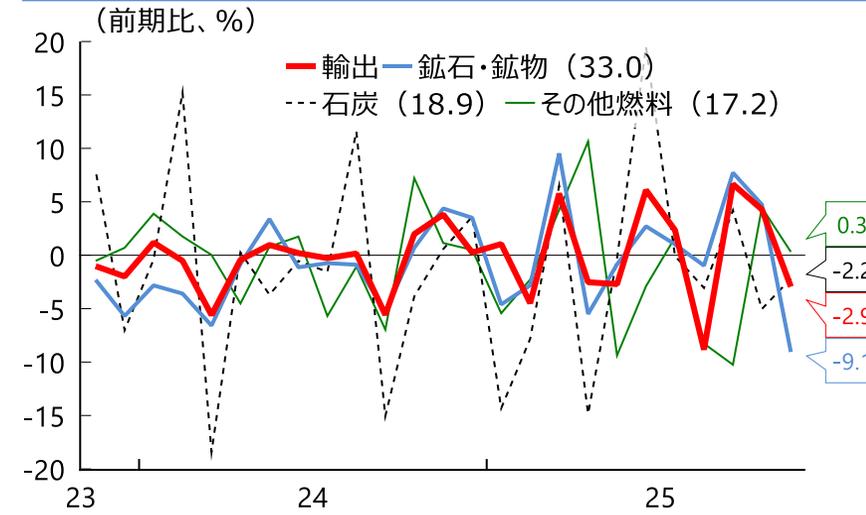
(注) 直近は政策金利が1/29日、その他が12月。25/4月以降は新基準の月次CPI前年比。

消費と住宅投資



(注) 直近は消費者コンフィデンスが1月、家計支出が11月、企業売上高が9月。SA系列。

輸出



(注) 直近は11月。SA系列。()内は24年輸出額に占める割合。



ニュージーランド

■ PMIは拡大に転じる

12月の総合PMIは52.1と、前月（47.8）から拡大に転じた。サービス業PMIが51.5と、拡大に転じたことに加え、製造業PMIも56.1と、前月（51.7）から拡大ペースが大きく加速し、総合PMIを押し上げた。

■ インフレ率はわずかに加速

10～12月の総合CPIは前年比+3.1%と、前期（同+3.0%）からわずかに加速。電気料金や家賃などの非貿易財を中心に上昇し、総合CPIはインフレ目標を上回った。コアCPIは同+2.5%と、前期（同+2.5%）から横ばいで推移。

■ クレジットカード等取引は減少

7～9月の小売売上高は前期比+1.9%と、前期（同+0.7%）から増加幅が拡大。12月のクレジットカード等取引は前月比▲1.7%と、前月（同+1.4%）から減少。衣料品やサービス支出を中心に消費が減少した。

■ 輸出は増加に転じる

12月の輸出は前期比+7.0%と、前月（同▲2.4%）から増加に転じた。乳製品を中心に、主要な品目で輸出が増加した。

